

岩手県農作物奨励品種等特性表

奨励品種等の区分

区 分	定 義	表示記号
奨励品種	その特性が優れ、本県に普及すべき優良な特定農作物の品種等であって、県が種子等の生産供給のための原種及び原原種を生産又は所有しているもの。	奨
準奨励品種	奨励品種以外の特定農作物の品種等であって、その特性が優れ、全県的に普及が見込まれるもの。	準
地域奨励品種	奨励品種以外の特定農作物の品種等であって、その特性が優れ、適応地域を限定して普及が見込まれるもの。	地

備考1 特定農作物とは稲、大麦、小麦、大豆、そば、雑穀、野菜、果樹及び花きをいう。

2 原種とは主要農作物等の種子等の生産を行うために必要な種子等をいう。

3 原原種とは当該原種の生産を行うために必要な種子等をいう。

令和8年3月

1 普通作物

(1) 水稲(うるち)

種類	栽培型	早中晩	品種名	系統名 (育成場所) ・ 来歴	編入年次	供試年次	播種期	移植期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	芒の多少・長短	草型	穂発芽性※1	脱粒性	玄米の色沢・光沢	心白の多少	腹白の多少	玄米		10a当たり収量 玄米重	品質	食味	諸抵抗性※3					栽培適応地帯	概評		栽培上の注意	試験の場所
																					千粒重	粒径※2 ×mm (長さ 幅)				葉いもち	穂いもち	イネカラバエ	耐冷性	耐倒伏性		優点	欠点		
水稲(粳)	中苗	早の中	白銀のひかり(奨)	岩手141号 (岩手県農研セ) 岩手107号、 (銀河のしずく) × ふ系243号	令和6	令和3~5	4.22	5.18	7.29	9.14	73	18.8	392	無	※4 (中間)	(中)	(難)	(淡褐・良)	(無)	(無)	23.6	5.8 × 3.4	598	中の上	上の中	(極強)	(やや強)	—	(強)	(やや強)	県中の標高240~350mの「いわてっこ」栽培地域及び県北地域	耐倒伏性 大粒 多収 良食味	穂発芽性	肥培管理及び刈取時期は、当面の間「いわてっこ」に準じる。白未熟粒による落等事例があるため、刈遅れに注意する。	県北農業研究所 (軽米町)
	中苗	早の中	いわてっこ(奨)	岩南16号 (岩手県農研セ) 東北143号 (ひとめぼれ) × 東北141号 (こころまち) 平成16年品種登録	平成13	平成25~29	4.17	5.19	8.3	9.21	76	17.4	463	やや少・短	偏穂数	中(やや難)	難	淡飴・良	無	無	22.8	5.2 × 2.9	576	上の中	上の中	中	強	—	強(極強)	中	標高240~350m地帯及び北部の標高240m以下の地帯	良食味 良質 耐冷性極強	耐倒伏性やや劣る	多肥では品質がやや劣るので多肥栽培は避ける。葉いもち病抵抗性は「中」なので防除基準に従い適期防除に努める。	県北農業研究所 (軽米町)
	稚苗	中の早	あきたこまち(奨)	秋田31号 (秋田県農試) コシヒカリ × 奥羽292号	昭和62	平成25~29	4.15	5.15	7.28	9.10	84	18.9	449	稀・短	偏穂数	やや難	難	中飴・良	微	無	21.7	5.2 × 3.0	609	上の中	上の中	中	やや弱	強	中	やや弱	県中部平坦地	良食味 良質	低温発芽性やや劣る やや弱稈 いもち病抵抗性やや劣る	低温発芽性がやや劣るので加温出芽を行う。稈はやや弱めなので、無理な多肥栽培は避ける。いもち病抵抗性がやや劣るので適期防除に努める。また紋枯病の防除にも留意する。	県農業研究センター (北上市)
	稚苗	中の中	銀河のしずく(奨)	岩手107号 (岩手県農研セ) 奥羽400号 × 北陸208号 平成30年品種登録	平成27	平成25~29	4.15	5.15	7.28	9.11	74	19.1	431	無	偏穂重	かなり難(難)	難	淡飴・良	無	無	22.3	5.1 × 2.8	631	上の中	上の中	やや弱	かなり強	—	かなり強(極強)	強	県中部・沿岸南部の平坦地及び県南部の標高120m以上	良食味 穂いもち かなり強 強稈 耐冷性 かなり強	葉いもち病抵抗性やや劣る	苗が徒長しやすく、色が淡いので、育苗ではハウスの温度管理に努める。葉いもち抵抗性がやや劣るので適期防除を行う。基肥は6kg/10a以内、追肥は幼穂形成期に行う。多肥栽培は行わない。	県農業研究センター (北上市)

種類	栽培型	早中晩	品種名	系統名 (育成場所) ・ 来歴	編入年次	供試年次	播種期	移植期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	芒の多少・長短	草型	穂発芽性※1	脱粒性	玄米の色沢・光沢	心白の多少	腹白の多少	玄米		10a当たり収量 玄米重	品質	食味	諸抵抗性※3					栽培適応地帯	概評		栽培上の注意	試験の場所
																					千粒重	粒径※2				葉いもち	穂いもち	イネカラバエ	耐冷性	耐倒伏性		優点	欠点		
水稻(粳)	稚苗	晩の中	金色の風(奨)	岩手118号 (岩手県農研セ・岩手生工研) Hit1073 × ひとめぼれ 令和元年品種登録	平成29	平成26～29	4.17	5.15	8.5	9.25	86	18.9	541	少・短	偏穂数	難	難	中飴・良	無	無	23.1	5.2 × 2.8	554	上 の 下	上 の 上	やや弱	中	—	強(極強)	やや弱	県南部の標高120m以下	極良食味 良質 耐冷性極強	低収、耐倒伏性	食味特性を発揮するために、以下の点に留意する(詳細は栽培指導に従うこと)。 1 遅植えを避ける。 2 窒素施肥量は基肥で6kg/10a以内、追肥は減数分裂期に行う。 3 刈取り時期の目安は出穂後積算温度で概ね950～1050℃とする。	県農業研究センター(北上市)
	稚苗	晩の中	ひとめぼれ(奨)	東北143号 (宮城県古川農試) コシヒカリ × 初星	平成3	平成26～29	4.17	5.15	8.4	9.23	83	18.7	542	少・短	偏穂数	難	難	中飴・良	無	無	22.8	5.1 × 3.0	620	上 の 中	上 の 中	やや弱	中	—	強(極強)	やや弱	県中南部平坦地	極良食味 耐冷性強 登熟が早い	いもち病抵抗性がやや劣るので、適期防除に努める。 耐倒伏性がやや弱く挫折型の倒伏となりやすいので、窒素過多や追肥には注意する。 もみ数を確保するため、栽植密度は十分に確保する。	県農業研究センター(北上市)	
	稚苗	晩の中	ササニシキ(奨)	東北78号 (宮城県古川農試) 奥羽224号 (ハツニシキ) × ササシグレ	昭和39	平成26～29	4.11	5.13	8.1	9.17	85	17.6	567	少・短	穂数	やや易	難	淡飴・良	無	微	22.2	5.0 × 2.9	649	上 の 下	上 の 下	やや弱	弱	強	弱(やや弱)	弱(やや弱)	県中南部平坦地	良食味 良質	いもち病抵抗性弱 耐倒伏性は劣る	いもち病抵抗性は弱く、稈は細めで倒伏しやすいので窒素過多や追肥には注意する。	県農業研究センター(北上市)

※1: 「穂発芽性」の()内は育成地の品種登録申請時の評価を示す。

※2: 「粒径」は品種登録申請時あるいは奨励品種編入時のデータに基づく。

※3: 「諸抵抗性」は「UPOVテストガイドラインに基づく審査基準(新審査基準)」による特性値を示し、()内は旧分類あるいは品種登録申請時評価を示す。
「—」は新基準による評価が公表されていないことを示す。

※4: 「白銀のひかり」の()内の特性は、育成地(県農業研究センター)評価である。

水稻(うるち・酒米)

種類	栽培型	早中晩	品種名	系統名 (育成場所) ・ 来歴	編入年次	供試年次	播種期	移植期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	芒の多少・長短	草型	穂発芽性※1	脱粒性	玄米の色沢・光沢	心白の多少	腹白の多少	玄米		10a当たり 収量	品質	食味	諸抵抗性※3					栽培適応 地帯	概評		栽培上の注意	試験の場所
																					千粒重	粒径※2				玄米重	葉いもち	穂いもち	イネカラバエ	耐冷性		耐倒伏性	優点		
水稻(粳)	中苗	早の中	ぎんおとめ(奨)	岩手酒52号 (岩手県農研セ) 秋田酒44号 × 東北141号 (こころまち)	平成12	平成25 ~ 29	4.17	5.19	8.1	9.18	71	16.5	399	稀・極短	偏穂数	中	難	—	やや少	—	26.8 (2.1 mm 篩)	5.2 × 3.2	602 (2.1mm)	上 の 下	—	やや強	やや強	—	やや弱 (中)	中	県中北部 (沿岸北部 やませ地帯 を除く) (契約栽培)	早生の酒造 好適米	耐冷性やや 劣る	耐冷性「中」とやや劣るので移植時期を早くしないこと、深水管理を励行するなどして、障害不稔を防止する。調製は2.1mmの篩を使用する。	県北農業研究所 (軽米町)
	稚苗	中の晩	吟ぎんが(奨)	岩南酒13号 (岩手県農研セ) 山形酒49号 (出羽燦々) × 秋田酒49号	平成11	平成20 ~ 24	4.14	5.16	8.3	9.18	88	19.2	349	無	穂重	やや難	難	—	多	少	27.2 (2.1 mm 篩)	5.4 × 3.2	672 (2.1mm)	上 の 下	—	中	やや弱	—	やや強 (強)	中	県中南部平 坦地 (契約栽培)	耐冷性やや 強 酒造好適米	いもち耐病 性やや劣る	いもち病は適期防除に努める。黄化もみ割合80%程度を目安に刈り取る。生もみの乾燥は一般用飯米よりも送風温度をやや下げる。調製は2.1mmの篩を使用する。	県農業研究 センター (北上市)
	稚苗	晩の中	結の香(奨)	岩手酒98号 (岩手県農研セ) 青系酒140号 (華想い) × 山田錦 平成26年品種 登録	平成24	平成20 ~ 24	4.15	5.15	8.6	9.24	76	19.1	473	無	中間	やや易	難	—	中	—	26.3 (2.0 mm 篩)	5.6 × 3.0	587 (2.0mm)	中 の 上	—	弱	中(やや強)	—	弱(やや弱)	やや弱	県中南部平 坦地 (契約栽培)	碎米が少なく、高度精米(40%)に向く	収量が少ない。葉いもち抵抗性が弱である。	醸造特性維持のため、多肥栽培や過度の追肥は行わない。収量確保と醸造特性維持のため、玄米のふるい目は2.0mmを使用する。倒伏・穂発芽に注意し遅刈りにならないようにする。	県農業研究 センター (北上市)

※1: 「穂発芽性」の()内は育成地の品種登録申請時の評価を示す。

※2: 「粒径」は品種登録申請時あるいは奨励品種編入時のデータに基づく。

※3: 「諸抵抗性」は「UPOVテストガイドラインに基づく審査基準(新審査基準)」による特性値を示し、()内は旧分類あるいは品種登録申請時評価を示す。

「—」は新基準による評価が公表されていないことを示す。

水稻(もち)

種類	栽培型	早中晩	品種名	系統名 (育成場所) ・ 来歴	編入年次	供試年次	播種期	移植期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	芒の多少・長短	草型	穂発芽性※1	脱粒性	玄米の色沢・光沢	心白の多少	腹白の多少	玄米		10a当たり 収量 玄米重	品質	食味	諸抵抗性※3					栽培適応 地帯	概評		栽培上の注意	試験の場所
																					千粒重	粒径※2				葉いもち	穂いもち	イネカラバエ	耐冷性	耐倒伏性		優点	欠点		
水稻(糯)	稚苗	中の中	ヒメノモチ(奨)	奥羽糯277号 (東北農試) 大系227 × こがねもち	昭和47	平成25～29	4.15	5.15	7.27	9.9	82	18.8	351	稀・極短	偏穂重	易	難	乳白・良	—	—	23.0	5.4 × 3.0	522	上 の 下	上 の 下	強	強	強	やや弱(中)	やや弱	県中南部 平坦地	良質 多収 熟色良	穂発芽性 白葉枯れ病 耐病性弱 耐倒伏性や や劣る	多収、良質である。稈が伸 長しやすいので追肥には十分 注意する。 ふ先色は梗と同じ黄白なの で梗との判別に注意。穂発芽 しやすいので適期刈り取りに 努める。 ハゼが劣ることがあるので、 乾燥法に注意する。	県農業研究 センター (北上市)
	稚苗	中の晩	もち美人(奨)	岩南糯19号 (岩手県農研セ) 新潟糯31号 (わたぼうし) × 中部糯80号 平成17年品種 登録	平成14	平成25～29	4.15	5.15	7.31	9.14	77	17.9	331	稀・極短	偏穂重	やや易	難	乳白・良	—	—	24.4	5.5 × 3.0	515	上 の 下	上 の 下	やや強	強	—	—(やや強)	やや強	北上川流域 の標高250m 以下の矢 巾・紫波以 南	耐冷性 耐倒伏性 良質	穂発芽性	耐倒伏性は強いが、多肥栽 培では、登熟・品質低下を招 く恐れがあるので注意する。 穂発芽しやすいので適期刈 り取りに努める。 ふ先色は褐色。	県農業研究 センター (北上市)
	稚苗	晩の晩	こがねもち(地)	中新糯40号 (新潟農試 中条試験地) 信濃糯3号 × 農林17号	昭和34	平成25～29	4.15	5.15	8.5	9.24	83	17.3	332	稀・短	偏穂重	やや易	難	乳白・良	—	—	22.2	4.9 × 3.1	628	中 の 上	上 の 中	やや弱	中	強	—(中)	やや弱	県南部平坦 地	良食味	穂発芽性 晩生 耐倒伏性や や劣る	出穂が遅いので栽培地域に は十分注意を要する。 稈が伸長し、倒伏しやすい ため、多肥栽培は避ける。 品質は中位、良食味。ふ先 色は淡褐色。	県農業研究 センター (北上市)

※1: 「穂発芽性」の()内は育成地の品種登録申請時の評価を示す。

※2: 「粒径」は品種登録申請時あるいは奨励品種編入時のデータに基づく。

※3: 「諸抵抗性」は「UPOVテストガイドラインに基づく審査基準(新審査基準)」による特性値を示し、()内は旧分類あるいは品種登録申請時評価を示す。

「—」は新基準による評価が公表されていないことを示す。

水稻(うるち非主食用)

種類	栽培型	早中晩	品種名	系統名 (育成場所) ・ 来歴	編入年次	供試年次	播種期	移植期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	芒の多少・長短	草型	穂発芽性※1	脱粒性	玄米の色沢・光沢	心白の多少	腹白の多少	玄米		10a当たり 収量	品質	食味	諸抵抗性※3					栽培適応 地帯	概評		栽培上の注意	試験の場所
																					千粒重	粒径※2				粗玄米重	葉いもち	穂いもち	イネカラバエ	耐冷性		耐倒伏性	優点		
水稻うるち非主食用	中苗	早の晩	たわわっこ(奨)	岩手122号 (岩手県農研セ) 羽系飼1170 × 岩手95号 令和4年品種 登録	平成 29	平成 28 ~ 29	4.18	5.19	8.4	9.28	70	18.8	276	稀・極短	穂重	中(やや難)	難	淡飴・やや良	多	多	25.8	幅mm (長さ× 2.8	763	下の上	—	極強	強	—	やや強(強)	強	盛岡以南の 北上川流域 200m以下	多収 耐倒伏性	白ふ、不稔 やや多 穂ぞろいや や不良	飼料用米、米粉用など非主 食用として栽培する。一般主 食用品種への混入に注意す る。 籾数を確保するため、生育 に応じて幼穂形成期追肥をす ること。	県北農業研 究所 (軽米町)
	中苗	晩の中	つぶゆたか(奨)	岩南29号 (岩手県農研セ) 江70号 × ふくひびき 平成23年品種 登録	平成 22	平成 25 ~ 29	4.15	5.15	8.5	9.20	93	19.8	473	極少・短	偏穂重	やや難	難	淡飴・やや良	微	微少	22.6	5.3 × 3.0	755	中の上	—	やや強	やや強	—	やや強(強)	強	盛岡以南の 北上川流域 200m以下	多収	多肥栽培で いもち耐病 性不十分	飼料用米、米粉用など非主 食用として栽培する。一般主 食用品種への混入に注意す る。 いもち病抵抗性が「やや 強」であるため基本防除に努 める。 穂数および籾数を確保する ため、分けつ期追肥と幼穂形 成期追肥をすること。	県農業研究 センター (北上市)

※1: 「穂発芽性」の()内は育成地の品種登録申請時の評価を示す。

※2: 「粒径」は品種登録申請時あるいは奨励品種編入時のデータに基づく。

※3: 「諸抵抗性」は「UPOVテストガイドラインに基づく審査基準(新審査基準)」による特性値を示し、()内は旧分類あるいは品種登録申請時評価を示す。

「—」は新基準による評価が公表されていないことを示す。

(2) 麦類

種類	早中晩	品種名	来歴 (育成地)	編入 年次	試験 場所	供試 (播種) 年次	播種 期	出穂 期	成熟 期	稈長	穂長	穂数	芒の長 短	株の開 閉	穂発芽 性	脱粒性	秋播性 程度	玄麦		品質	諸抵抗性							適地	概評		栽培上の注意	
																		千粒重	収量		赤さび・ 小さび病	うどんこ 病	赤かび病	縞萎縮病	凍霜害抵 抗性	耐寒雪性	耐肥性		耐倒伏性	優点		欠点
小 麦	早	ナンプコムギ (奨)	農林33号 × 農林27号 (元盛岡農事 改良実験所)	昭26	軽米町	平21 ~ 27	9.26	5.22	7.7	82	9.6	507	短	やや閉	難	難	V	37.1	356	中の上	やや弱	やや強	中	弱	強	強	やや弱	弱	根雪期間110日以下の 県下全域(安全期 間は100日以下)。 輪作体系に適する。	耐寒雪性強 良質	縞萎縮病弱 赤さび病やや 弱	耐寒雪性強。やや倒 伏しやすいので注意 する。縞萎縮病に弱 いので連作は避け る。
							10.5	5.18	6.30	91	10.1	323						43.3	371													
	早	ゆきちから (奨)	東北141号 × さび系23号 (東北農研) 平成17年品種 登録	平15	軽米町	平21 ~ 27	9.26	5.16	7.6	94	8.4	643	極短	やや閉	中	中	V	36.5	500	上の下	強	強	やや弱	強	強	強	強	やや強	根雪期間110日以下の 県下全域(安全期 間は100日以下)。 地力の多いほ場に適 する。	強稈 良質 縞萎縮病強 製パン適性良	赤かび病やや 弱 穂発芽中	製パン性など加工適 性を確保するため後 期追肥を励行する。 穂発芽を避けるため 適期刈り取りを徹底 する。赤かび病の防 除を徹底する。
							10.5	5.15	6.29	85	9.1	381						40.5	451													
早	銀河のちから (奨)	盛系C-138 × 東北205号 (ハルイブキ) 平成26年品種 登録	平25	軽米町	平25 ~ 27	9.25	5.13	6.25	95	8.0	633	やや長	やや開	難	中	IV	36.3	633	上の下	中	中	中	強	中	やや弱	強	強	根雪期間80日以下の 平坦地	超強力小麦 耐倒伏性強 縞萎縮病強 良質多収 穂発芽性難 製パン適性優 れる	耐寒雪性 やや弱	耐寒雪性がやや弱な ので作付けは根雪期 間80日以下の平坦地 とし、雪腐病防除に 努める。	
						10.5	5.12	6.26	82	9.1	367						40.1	455														
早	ナンプキラリ (奨)	盛系C-130b-5- 5//東北214(ゆ きちから)/東 北207号/3/盛系 C-B3423 × 盛系C-B3423 (東北農研) 令和4年品種 登録	令5	軽米町	H25 ~ R3	9.25	5.17	7.2	81	8.9	515	やや長	中	難	中	IV ~ V	39.2	568	上の下	やや強	中	中	強	-	やや弱	-	やや強	県下全域	多収 良質 縞萎縮病強 穂発芽性難 製パン適性優 れる	耐寒雪性やや 弱	耐寒雪性がやや弱で あるため、雪腐病防 除を徹底するととも に、根雪期間の長い 地域では作付けを避 ける	
						10.6	5.14	6.29	78	9.4	400						42.2	550														
大 麦	早	ファイバース ノウ (地)	東山皮85号 × 東山皮86号 (長野農事試)	平15	北上市	平14 ~ 20	10.4	5.6	6.17	86	4.6	319	長	中	易	やや易	IV	38.2	458	上の下	中	やや弱	中	強	強	強	強	根雪期間100日以下 の県中南部(安全期 間は90日以下)	強稈 耐寒雪性強 良質	うどんこ病 中 穂発芽易	過度の追肥(特に融 雪期以降)は硝子粒 増加などにより加工 適性の低下をもたら す可能性があるので 避ける。	

(3) 大豆、ひえ、あわ、きび

◎場所：軽米町；農研七県北農業研究所

a 大豆

北上市；農研セ

早中晩	区分(銘柄)	品種名	来歴 (育成場所)	データ		播種期	開花期	成熟期	主茎長	分枝数	百粒重	子実重	生態型	側小葉の形	伸育型(草型)	毛茸の有無及び色	熟莢の		裂莢性	蔓化	子実の		粗たん白質	粗脂肪	諸抵抗性				適地	概評		特性と栽培上の注意			
				年次	場所												色	色の濃淡			形状	種皮の地色			臍色	シストセンチュウ	ウイルス病	黒痘病		紫斑病	耐倒伏性		優点	欠点	
晩	白目中粒	ナンブシロメ (奨)	ネマシラズ(R ₄) × 北見長葉(白目) (元東北農試)	年	軽米町	5.25	7.28	10.19	91	5.2	27.3	423	中間型	長	有限	白	紫	褐	—	中	無 微	球	黄白	黄	41.8	19.6	強	強	強	強	中	高冷地を除く 県下全域	良質 多収 シストセン チュウに強	やや小粒	播種適期は県央北部で5月 下旬～6月上旬、県南部で は、6月上旬～中旬であ る。 良質。褐斑、紫斑などの障 害粒が少ない。1万本～ 1.2万本/10aが基準。
				昭52	北上市	6.3	7.24	10.7	41	4.7	24.3	267																							
晩	白目大粒	リュウホウ (奨)	スズユタカ × 刈交343F ₇ (元東北農試)	平21	北上市	6.3	7.29	10.5	41	4.0	32.3	297	中間型	鋭先卵形	有限	白	紫	褐	中	中	無	球	黄白	黄	43.4	19.4	強	中	—	中	中	県央部及び県 南部(盛岡地 域以南)	大粒 良質 豆腐適性が 高い	しわ粒がで やすい 耐倒伏性中	播種適期は県中央部で5月 中旬～6月上旬、県南部で は、6月上中旬である。播 種密度は、播種適期内での 早播で7千～1万本/10a、晩 播で1.2万～1.5万本/10aが 基準。しわ粒が発生しやす いので、収穫適期になり次 第、速やかに収穫するこ と。
晩	白目大粒	シュウリュウ (奨)	東北143号 × 刈交675号 (東北農研) 平成27年品種 登録	平26	軽米町	5.25	8.2	10.19	83	3.4	35.4	344	中間型	鋭先卵形	有限	白	紫	—	中	やや 易	無	球	黄白	黄	44.6	18.9	弱	強	—	やや 強	強	県下全域 (標高300m以 下)	大粒 良質 多収 耐倒伏性強 豆腐加工適 性が高い	シストセン チュウ弱 裂莢性やや 易	播種適期は県北部で5月下 旬、県中部で5月中旬～6月 中旬、県南部では6月上中 旬である。播種密度は、県 北部は1.5万本/10a、県中 南部は1万本～1.5万本/10a とし、播種適期内の晩播で はやや密植とする。 シストセンチュウ抵抗性が 弱いので連作しない。ま た、裂莢しやすいので、収 穫適期になり次第、速やか に収穫する。
				平26	北上市	6.3	7.31	10.9	40	4.6	35.7	315																							
晩	白目大粒	リョウユウ (奨)	おおすず ² × 刈交1908F ₁ (東北農研)	令2～5	軽米町	5.25	7.30	10.18	70	5.9	37.6	537	中間型	鋭先卵形	有限	白	紫	—	中	易	無	球	黄白	黄	43.6	20.5	極強	極強	—	—	強	県北地域の大豆栽培地帯、 県内全域のダイズシストセ ンチュウ発生 ほ場	大粒 青立ち少 シストセン チュウ極強	裂莢性易	栽培法は現在検討中だ が、当面は県北部で播種適 期を5月下旬～6月上旬、 播種密度を1.43万～1.9万 本/10aとし、県中南部では 播種適期、播種密度ともに 「シュウリュウ」に準ず る。立枯性病害抵抗性が 「やや弱」のため、ほ場の 排水対策を徹底するほか、 被害履歴のあるほ場での作 付は避けること。また、よ り寄生性の強いダイズシス トセンチュウレースの出現 リスクを避けるため、計画 的な輪作体系を検討し、連 作を行わないこと。
				令2～5	北上市	6.4	7.30	10.14	63	6.3	37.7	429																							

b ひえ

品種名	来歴 (育成地)	編入年次	試栽培場様式	供試年次	移植期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	穂型	芒の多少・長短	千粒重	子実重	適地	栽培特性	概評		栽培上の注意
																	優点	欠点	
ねばりっこ2号 (奨)	「もじゃっぺ」 (半もちひえ)の突然変異 (岩手県農業研究センター 県北農業研究所) 平成24年品種登録	平21	育成地 (軽米町) 移植(水田)	平 19 ・ 20	月日 5.16	月日 8.6	月日 9.22	cm 122	cm 10.5	本/m ² 136	紡錘形	無	g 3.01	kg/10a 274	県下全域の水田	短稈で穂長が短い が、分けつ力に優れ穂数が多い。	短稈・半もち性・無芒	粒大が小さい	

c あわ

品種名	来歴 (育成地)	編入年次	試栽培場様式	供試年次	播種・移植期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	穂型	穂の姿勢	千粒重	子実重	適地	栽培特性	概評		栽培上の注意
																	優点	欠点	
いわてあわ こがね (奨)	しなのつぶ姫×ゆいこがね (岩手県農業研究センター 県北農業研究所)	令5	育成地 (軽米町) 移植(畑)	令 1 ～ 4	月日 播種期 5.13 移植期 6.3	月日 8/1	月日 9/24	cm 86.0	cm 22.3	本/m ² 54.3	円筒	下垂	g 2.27	kg/10a 457	県下全域	「ゆいこがね」に比べて稈長が短く耐倒伏性に優れ多収。 食味官能評価は「ゆいこがね」にくらべて外観の黄色味、つやが優れ良食味。 胚乳形質は糯性で穀粒色は「ゆいこがね」よりも黄色味が鮮やかで、ルテイン含量が高い。 基肥と追肥を合わせた増肥で2割増収可能。	糯性・短稈・多収・穀粒色が鮮やかな黄色。	—	キセニアを避けるため、粳あわとの隣接栽培は行わない。 収穫・調製時の異品種混入には気を付ける
			育成地 (軽米町) 直播(畑)		月日 播種期 6.3	月日 8/8	月日 9/29	cm 92.5	cm 20.2	本/m ² 63	円筒	下垂	g 2.25	kg/10a 407					
ゆいこがね (奨)	仁左平在来(二戸市の在来系統)×大槌10(大槌町の在来系統) (岩手県農業研究センター 県北農業研究所) 平成28年品種登録	平25	育成地 (軽米町) 直播(畑)	平 23 ・ 24	播種期 6.1	8.14	10.18	135	18.2	41	円筒	下垂	2.24	315	県下全域	両親よりも稈長が短い が、穂は長い。現行の黄糯あわ「平」よりも多収である。 穀粒色は「平」よりも鮮やかな黄色で大粒である。	もち性・多収・粒が大きい・粒色が鮮黄色	—	キセニアを避けるため、粳あわとの隣接栽培は行わない。 収穫・調製時の異品種混入には気を付ける。

d きび

品種名	来歴 (育成地)	編入年次	試栽培 験培場 様所式	供試年次	播種期	出穂期	成熟期	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	穂型	穎色	千粒重 g	子実重 kg/10a	適地	栽培特性	概評		栽培上の注意
																	優点	欠点	
ひめこがね (奨)	当麻きび×戸在来(月館) (岩手県農業研究センター 県北農業研究所) 平成30年品種登録	平26	育成地 (軽米町) 直播(畑)	平 23 ・ 24	月日 6.1	月日 7.29	月日 9.15	cm 126	cm 38.8	本/m ² 51	寄穂	黒く 濃い 茶褐色	g 7.42	kg/10a 310	県下全域	「戸在来(月館)」に比 べ、稈長は並みからやや短 く、大粒かつ多収。穎色は 「釜石16」よりも濃い。	もち性・ 多収・粒 が大きい ・穎色 が濃い。	—	キセニア及び異品種混入を 防ぐため、粳きびの近くで は栽培しない。 収穫・調製時の異品種混入 には気をつける。

2 園芸作物

(1) 果 樹

a リンゴ

品種名	来歴	編入年次	収穫期	一果(房)重g	果皮の色	糖度Brix	酸度%	その他の特徴	栽培上の留意点
高野1号 商標:紅ロマン 【準】	1. 育成元 岩手県・高野卓郎 2. 交配組み合わせ 「シナノレッド」×「さんさ」 3. 育成年次 平成10年(自然交雑) 4. 平成23年品種登録	平28	8月中～下旬	250～300	濃紅色で不明瞭な縞模様を伴い、全面に着色する。	12～14	0.45～0.5	1. 樹姿は開張性、樹勢はやや弱である。 2. 開花期は、「ふじ」より開花日が2日、満開日が1日程度早い。 3. 果形は円錐形。高温下でも着色するため、着色管理が容易である。 4. 果汁が中程度、甘酸適和で、食味良好である。 5. 貯蔵性は、冷蔵で約1ヵ月と推察される。 6. 収穫前落果はほとんど見られない。	1. S遺伝子型はS3S5で、主要品種と交雑和合性である。 2. 一気に成熟しやすいため、収穫遅れがないように注意する。 3. 心かび病の発生は「北斗」並。 4. 年により、果肉褐変が確認される。収穫前及び収穫後の貯蔵中に見られる。 5. 早期に成熟し、果実肥大が止まる成熟異常果が若木を中心に見られる。 6. その他、コルクスポット等の生理障害も見られるため、強せん定、多肥栽培を避け、カルシウム資材等の施用に努める。
さんさ 【地】	1. 育成元 農林水産省果樹試験場盛岡支場 2. 交配組み合わせ 「ガラ」×「あかね」 3. 育成年次 昭和44年	昭63	9月上旬	200～280	橙紅色で着色が容易である。	13～15	0.33～0.46	1. 樹姿はやや直立、樹勢はやや弱である。 2. 開花期は「ふじ」とほぼ同時期である。 3. 果形は円錐形。 4. 肉質はち密で、糖度も高く、酸も適度にあるため、食味は良い。 5. 貯蔵性は普通貯蔵で約2週間、冷蔵で約3週間である。 6. 収穫前落果はほとんど見られない。	1. S遺伝子型はS5S7で、主要品種と交雑和合性である。 2. 果実が小さめなので、果実肥大を促進させるため、過剰着果を避ける。 3. 側果では年によりさび果が見られるので中心果の結実確保に努める。
きおう 【奨】	1. 育成元 岩手県園芸試験場 2. 交配組み合わせ 「玉林」×「千秋」 3. 育成年次 昭和58年	平4	9月上～中旬	300前後	黄色	13～15	0.3前後	1. 樹姿はやや開張、樹勢は中程度である。 2. 開花期は「ふじ」とほぼ同時期である。 3. 果形は円形。 4. 果実は300g前後であり、「つがる」に比較するとやや小さく、「さんさ」よりやや大きい。 5. 果肉は黄白色で硬く、非常に歯触りがよい。食味は、果汁が多く甘酸適和で優れている。 6. 貯蔵性は普通貯蔵で20日程度、冷蔵で1ヵ月以上である。	1. S遺伝子型はS1S7で、主要品種と交雑和合性である。 2. 花芽の着生は、短果枝型で良好、豊産性であるため、過着果にならないように注意する。(4～5項芽に1果程度) 3. 黄色品種で収穫適期の判断が難しいため、「きおう用カラーチャート」で表面色3前後を目安とする。 4. 果実の大きさは、300g前後が品質的に良好であり、肥料のやり過ぎなどによる大玉の生産は避ける。 5. 収穫前落果があるので、落果防止剤散布が必要。
つがる 【奨】	1. 育成元 青森県りんご試験場 2. 交配組み合わせ 「ゴールドデンリシャス」×「紅玉」 3. 育成年次 昭和5年	昭57	9月上～中旬	300～350	黄緑色の地色に鮮紅色の縞が入り、全体に薄く着色する。	12～14	0.2～0.25	1. 樹姿は開張性、樹勢は中である。 2. 開花期は「ふじ」とほぼ同時期である。 3. 果形は長円形。果皮色は鮮紅色である。 4. 果肉は黄白色で、ち密、果汁多く甘味あり微酸で食味良好。 5. 貯蔵性は普通貯蔵で20日、冷蔵で約1ヵ月。 6. 花芽着生良好、豊産性。	1. S遺伝子型はS3S7で、主要品種と交雑和合性である。 2. 頂部優勢性が強く、枝の発出数が少なく短果枝型で、結果枝の老化が早いので、枝の先刈りや、早めの結果枝更新が必要。 3. 収穫前落果があるので、落果防止剤散布が必要。
岩手7号 商標:紅いわて 【奨】	1. 育成元 岩手県農業研究センター 2. 交配組み合わせ 「つがる」×「プリシラ」 3. 育成年次 平成3年 4. 平成21年品種登録	平20	9月下旬	250～300	濃紅色～暗紅色	13～14	0.3～0.4	1. 樹姿は開張性、樹勢は中である。 2. 開花期は「ふじ」とほぼ同時期である。 3. 果形は円形。 4. 酸味が穏和で食味良好。まれに蜜が入り、果汁は多い。 5. 収穫期は9月下旬で、「つがる」より遅く「ジョナゴールド」より早い。「千秋」とほぼ同時期である。 6. 貯蔵性は、普通貯蔵で10日程度、冷蔵で約1ヵ月と推察される。	1. S遺伝子型はS3S9で、主要品種と交雑和合性である。 2. 果汁の量は多いが、生産地、収穫期によって多少変化する。 3. 着色が先行するので、内部品質を吟味して収穫を行う。

品種名	来歴	編入年次	収穫期	一果(房)重g	果皮の色	糖度Brix	酸度%	その他の特徴	栽培上の留意点
錦秋 【準】	1. 育成元 農研機構果樹茶業研究部門 2. 交配組み合わせ 「千秋」×「4-4349(「つがる」×「いわかみ」)」 3. 育成年次 平成6年 4. 平成31年品種登録	令5	10月上旬	290～350	濃赤～暗赤色	15前後	0.3前後	1. 樹姿は中間、樹勢は中程度である。 2. 開花期は、「ふじ」と比較し4日程度遅く、「シナノゴールド」よりも1日程度遅い。 3. 果形は円形。 4. 肉質は中～やや良、果汁は中～多であり、食感は良好である。 5. 酸味が穏和で甘みを強く感じるため、食味は良好である。 6. 高温下でも着色するため、着色管理が容易である。 7. 収穫期は10月上旬で、「紅いわて」より遅く「ジョナゴールド」より早い。 8. 貯蔵性は常温で10日程度、冷蔵で1か月程度であるが、常温下では油上がりが発生しやすい。	1. S遺伝子型はS3S7で、「つがる」以外の主要品種とは交雑和合性であるが、開花時期が遅いので受粉環境には留意する。 2. 果実全体に着色し、果皮の着色や地色による熟度の判定が困難な場合があるため、内部品質や食味を確認してから収穫を行う。 3. 年により収穫前落果の発生が見られるため、気象経過等で生理落果が懸念される場合には、落果防止剤の散布を行う。
ジョナゴールド 【奨】	1. 育成元 アメリカ・ニューヨーク州農業試験場 2. 交配組み合わせ 「ゴールデンデリシャス」×「紅玉」 3. 育成年次 昭和18年	昭57	10月上旬～中旬	400	黄色の地色に鮮紅色～濃紅色	15前後	0.5前後	1. 樹姿は開張性、樹勢は強である。 2. 開花期は「ふじ」とほぼ同時期である。 3. 果形は円～長方形。 4. 甘味強く、酸もあり食味濃厚。 5. 貯蔵性は普通貯蔵で約1ヵ月、冷蔵で約2ヵ月。 6. 花芽着生良好、豊産性。	1. 3倍体品種(S2S3S9)であるため、受粉条件に留意して植栽すること。 2. 収穫後の果肉軟化、果面の脂質などが著しいので即売を原則とする。
紅玉 【準】	1. 育成元 ニューヨーク州・フィリップリック氏園 2. 交配組み合わせ エゾーパススピッツェンベルグの偶発実生 3. 育成年次 1800年に発見	昭57	10月上旬～中旬	180～200	黄色の地色に満面紅色～暗紅色	13～15	0.5～0.8	1. 樹姿は直立性、樹勢は中である。 2. 開花期は「ふじ」とほぼ同時期である。 3. 果形は円～長方形。 4. 果肉は黄白色で肉質ち密、甘酸適和、芳香あり、生食、加工に適する。 5. 貯蔵性は普通貯蔵で2ヵ月、冷蔵で約3ヵ月。 6. 豊産性で生産力が安定している。	1. S遺伝子型はS7S9で、主要品種と交雑和合性である。 2. 果実はサビが出やすく、黒点病にかかりやすい。貯蔵中にはジョナサンスポット、フレックル、ゴム病などの障害が多い。 3. 枝の上げ上りが強く、生産量低下の原因となるので結果枝の更新を計画的に行う。
王林 【準】	1. 育成元 福島県・大槻只之助 2. 交配組み合わせ 「ゴールデンデリシャス」×「印度」 3. 育成年次 昭和18年初結果	昭57	10月下旬	300～350	黄緑色～黄色	13～14	0.15～0.2	1. 樹姿は直立性、樹勢は強である。 2. 開花期は「ふじ」よりも早い。 3. 果形は卵形～長円錐形。 4. 甘味強く、微酸、果肉はち密で芳香強く、果汁多、食味良好。 5. 貯蔵性は普通貯蔵で約2ヵ月、冷蔵で約3ヵ月。 6. 早成り、豊産性。	1. S遺伝子型はS2S7で、主要品種と交雑和合性である。 2. 結果枝が古くなると果実が小さくなるので早めの結果枝更新が必要。
シナノゴールド 【準】	1. 育成元 長野県果樹試験場 2. 交配組み合わせ 「ゴールデンデリシャス」×「千秋」 3. 育成年次 昭和58年 4. 平成11年品種登録	平16	10月下旬	300～350	鮮黄色	14～15	0.4～0.5	1. 樹姿は中間、樹勢は中である。 2. 開花期は「王林」より4～5日、「ふじ」より1～2日遅く、現在栽培されている主要品種の中では、最も遅く開花する。 3. 果形は円～長円形。 4. 食味は、甘酸ともに多く濃厚で、やや酸味が勝る。 5. 貯蔵性は冷蔵で2ヵ月。	1. S遺伝子型はS1S3で、主要品種と交雑和合性である。 2. 収穫期及び地域により酸度の低下が遅い場合がある。 3. サビが発生するが、その程度は軽微であり、商品性に影響するものではない。また、年により、縫合線状の特徴的なサビが発生することがある。 4. 裂果は極めて少ないが、高接ぎ樹の側果で発生率が高まる傾向がある。

品種名	来歴	編入年次	収穫期	一果(房)重g	果皮の色	糖度Brix	酸度%	その他の特徴	栽培上の留意点
大夢 【奨】	1. 育成元 岩手県農業研究センター 2. 交配組み合わせ 「ふじ」×「ゴールデンデリシャス」 3. 育成年次 平成元年 4. 平成25年品種登録	平22	11月上旬	350～480	薄紅色～鮮紅色	14前後	0.45前後	1. 樹姿は中間、樹勢は中である。 2. 開花期は、「ふじ」より開花日が1日遅く、満開日はほぼ同じである。 3. 果形は長円形。 4. 肉質は「ふじ」に似ているが、果汁は「ふじ」よりも多く、程よい香りがある。また、果肉には蜜が入り清涼感漂う。 5. 貯蔵性は冷蔵で約2ヵ月と「ふじ」より短いと推察され、年内販売に向いている。	1. 3倍体品種(S1S3S9)であるため、受粉条件に留意して植栽すること。 2. 品種特性として、着色は薄い品種である。 3. JM7台木による栽培で、着色が良く、M.9台木(複製原木)より熟期が早まる傾向がある。
ふじ 【奨】	1. 育成元 農林水産省果樹試験場盛岡支場 2. 交配組み合わせ 「国光」×「デリシャス」 3. 育成年次 昭和14年	昭57	11月上旬～中旬	300～350	黄緑色の地色に縞が入り全体にうすく紅色となる。	13～15	0.3～0.35	1. 樹姿は開張性、樹勢は強である。 2. 開花期の平年値は、開花日が5月6日頃、満開日は5月10日頃である。 3. 果形は円～長円形。 4. 果肉は硬く、黄白色、甘味濃厚で果汁多く芳香があり食味は優れている。 5. 貯蔵性は冷蔵で約4ヵ月。 6. 隔年結果も少なく豊産性。早期落果(ジューンドロップ)や収穫前落果もほとんどない。	1. S遺伝子型はS1S9で、主要品種と交雑和合性である。 2. 300m以上の高標高では、小玉で低収品質不良となる場合がある。 3. 11月上旬に低温による樹上凍結の心配される地域では、植栽割合を少なくする。
岩手15号 【奨】	1. 育成元 農業研究センター 2. 交配組合せ 不明 3. 育成年次 昭和63年 4. 令和7年品種登録出願	令6	11月中下旬	450	濃赤色	15前後	0.5	1. 樹姿は中間、樹勢は中程度である。 2. 開花期は「大夢」や「ふじ」と同程度である。 3. 果形は円形。 4. 収穫時は甘酸ともに多くやや酸味が勝る。 5. 収穫期は11月中下旬で「ふじ」よりやや遅い。 6. 普通冷蔵6ヵ月後の食味評価は「ふじ」より高く、貯蔵性に優れ越年販売に適する。	1. S遺伝子型はS1S3で「シナノゴールド」以外の主要品種とは交雑和合性である。
はるか 【準】	1. 育成元 岩手大学 横田清 2. 交配組み合わせ 「ゴールデンデリシャス」×不明 3. 育成年次 昭和52年 4. 平成14年品種登録	平28	11月中旬	250～350	黄色	17～20	0.3～0.35	1. 樹姿はやや開張性、樹勢は中である。 2. 開花期は、「ふじ」と比較し開花日がほぼ同じ、満開日が2日程度遅い。 3. 果形は円錐形、サビの発生が多く、年により陽光面に赤く斑点状に着色する。 4. 果肉は硬く、みつが多く、果汁は中程度で、甘味が強く食味良好である。 5. 熟期は11月中旬で「ふじ」と同時期だが、収穫時期を遅らせることでみつ入りを促進することができる。 6. 貯蔵性は冷蔵で5ヵ月と極めて高い。	1. S遺伝子型はS2S9で、主要品種と和合性であるが、「ジョナゴールド」とは不和合性である。 2. 年によりピターピット症状の発生が見られるため、カルシウムの葉面散布剤や土壌への施用に努めるとともに、多肥、強せん定に注意する。 3. 無袋栽培では果実表面にサビの発生が多く、外観の評価は低いが、有袋にすることで外観が向上する。 4. 摘果時期が遅れると小玉になりやすいので、摘果を遅れず実施し、また、過着果にしないようにする。
雪いわて 【奨】	1. 育成元 岩手県農業研究センター 2. 交配組み合わせ 「ふじ」×「デリシャス」 3. 育成年次 昭和59年 4. 平成30年品種登録	平28	11月中旬～下旬	280g前後	濃紅色から暗紅色で全面に着色する。	15前後	0.29前後	1. 樹姿は中間、樹勢は弱である。 2. 開花期は、「ふじ」と比較し開花日がほぼ同じ、満開日が1日程度遅い。 3. 果形は円錐形で中玉である。 4. 肉質はふじより緻密であり、果汁はふじと同程度、特有の香りを有する。また、果肉にはみつが入る。 5. 酸が少なく、甘み強いのが特徴で、食味良好である。 6. 貯蔵性は冷蔵で約5ヵ月と「ふじ」より優れている。	1. S遺伝子型はS1S28で、主要品種と交雑和合性である。 2. 11月中～下旬にかけてみつ入りが増加し、硬度低下やデンプンの消失は緩慢であるが、樹上凍結の恐れのある地域は遅取りしないよう注意する。 3. 年により、つる割れが発生することがある(ふじ並の発生程度)。

b ぶどう

品種名	来歴	編入年次	収穫期	一果(房)重g	果皮の色	糖度Brix	酸度%	その他の特徴	栽培上の留意点
キャンベル・アーリー 【準】	明治30年ころ米国より導入	昭57	9月上旬～中旬	300～400	紫黒色	14～16	0.4～0.5	1. 幼木時は生育旺盛であるが、結果樹齢に達すると樹勢は落ち着く。 2. 耐寒性が強い。 3. 果実は果粒が密着し、輸送性は良い。	1. 開花時に樹勢を強くすると花振いが多く出ることがあるが摘心により防止できる。 2. 保水力のある肥沃な壇壤土に適す。
サニールージュ 【準】	1. 育成元 農林水産省果樹試験場カキ・ブドウ支場 2. 交配組み合わせ 「ピオーネ」×「レッドパール」 3. 育成年次 昭和52年 4. 平成12年品種登録	平16	9月上旬～中旬	220～280	紫赤色	18	0.4前後	1. 樹勢は落ち着きやすく、着粒は安定している。 2. 果房は、開花初めに8～10cm程度に調整し、結実後50～60粒とすることで220～280gとなる。 3. 果粒は長楕円で、一粒重は5g程度と「キャンベル・アーリー」と同程度である。 4. 果皮と果肉の分離は易、香りはフォクシーであるが、「キャンベル・アーリー」ほど強くない。 5. 花振い性は強いが、ジベレリン処理することで、密着した果房となる。	1. 9月中旬以降は過熟となる場合があるため収穫遅れに注意する。 2. 凍寒害防止のため、春植えとする(4月上中旬) 3. 耐寒性は「キャンベル・アーリー」と同等程度であると考えられるが、冬期間は主幹にわらを巻くなど対策を実施する。 4. 排水の悪い園地では枝が徒長し凍寒害を受けやすくなるため、植栽時は暗きよなどの排水対策を行う。
エーデルロツ 【奨】	1. 育成元 岩手県農業研究センター 2. 交配組み合わせ 「ハニーレッド」の自然交雑実生 3. 育成年次 平成元年 4. 平成25年品種登録	平21	9月中旬	300前後	赤色	18～20	0.4～0.5	1. 樹勢は中程度であるが、定植後3～4年程度はやや強めである。 2. 果粒は短楕円形で、一粒重は10g程度と「紅伊豆」よりやや小さい。 3. 耐寒性は「キャンベル・アーリー」と同等で「紅伊豆」よりも強い。 4. 裂果は「キャンベル・アーリー」並みで「紅伊豆」よりも少ない。 5. 脱粒が少なく「紅伊豆」よりも輸送性に優れる。	1. 耐寒性は「キャンベル・アーリー」と同等であるが、冬期間は主幹にわらを巻くなど防寒対策を実施する。 2. 排水の悪い園地では枝が徒長し凍寒害を受けやすく枯死の原因となるので、栽培にあたっては暗きよなど排水対策を行う。 3. 仕立て法は、平棚長梢仕立て、短梢棚を利用する場合は中～長梢仕立てとする。
ナイアガラ 【準】	明治26年ころ米国より導入	昭57	9月中旬～下旬	250～300	白色	15～17	0.4～0.5	1. 樹勢が強く、枝葉の伸びが旺盛で豊産性である。 2. 耐寒性が強い。 3. 香りはフォクシーが強い。	1. 果粒が密着するので摘粒が必要である。 2. 晩腐病に弱い。
紅伊豆 【地】	1. 来歴 「紅富士(井川667号)」の枝変わり	昭62	9月中旬～下旬	350	鮮紅色	18	0.5～0.7	1. 樹勢が強く、枝葉も旺盛に伸びるが花芽着生は良好である。 2. 耐寒性はやや劣る。 3. 花振い性、裂果性は少ない。	1. 成熟に高温量を要するので、県中、南部に適する。 2. 排水対策、防寒対策を講じ、耐寒性向上に努める。 3. 適正着果を守り、房作りを吟味し、品質向上に努める。 4. 欧米雑種なので、黒とう病、べと病、さび病などに注意する。
シャインマスカット 【準】	1. 育成元 (独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所 2. 交配組み合わせ 「安芸津21号(スチューベン×マスカットオブアレキサンドリア)」×「白南」 3. 平成18年品種登録	平24	9月下旬	400前後	黄緑	18前後	0.2～0.3	1. 短梢せんに適し、短梢せんの単位面積当たりの収量は長梢せんに比較して高い。 2. 果粒は短楕円であり、一粒重は10g程度。 3. 果皮と果肉の分離は中程度であり、皮ごと食べることができる。マスカット香が強い。 4. 裂果はほとんど見られず、脱粒性は「紅伊豆」ほど強くない。日持ち性は中程度であるが、穂軸の褐変が早い。	1. ジベレリン処理が必須であり、ジベレリン処理時の作業性や病害、果面の汚れ等の観点から、被覆栽培を基本とする。 2. 仕立て法にかかわらず、結実後2～3年の1果粒重は成木と比較して劣る。 3. 収穫期の幅が広く、収穫前期から十分な食味を有し、収穫後期でも果実品質の変化が少ない。 4. 耐寒性は「キャンベル・アーリー」よりやや弱い程度であると考えられるが、冬期間は主幹にわらを巻くなど対策を実施する。
アルモノワール 【準】	1. 育成元 山梨県 2. 交配組み合わせ 「カベルネ・ソーヴィニオン」×「ツヴァイゲルトレーベ」 3. 平成21年品種登録	令3	9月中旬	200～300	紫黒	19前後	0.8前後	1. 発芽期は「メルロー」よりやや遅め。 2. 樹勢は「メルロー」と同程度(中～強め)だが、花振い性は少ない。 3. 裂果はほとんど発生しない。 4. 慣行防除で品種特性に起因する病害虫の発生はない。 5. ワインは色が濃く、香りがフルーティで、酒質が優れる。	1. 耐寒性は「ツヴァイゲルトレーベ」並みに強い。 2. 棚仕立て及び垣根仕立てともに栽培可能である。
モンドブリエ 【準】	1. 育成元 山梨県 2. 交配組み合わせ 「シャルドネ」×「カユガ・ホワイト」 3. 平成28年品種登録	令2	9月下旬～10月上旬	150前後	黄緑～黄白	20前後	0.9～1.0	1. 発芽期はやや早い。 2. 樹勢は強めであるが、花振い性は少ない。 3. 裂果はほとんど発生しない。 4. べと病に罹病しにくい。 5. ワインはマスカット香を有し、酒質が優れる。	1. 果房への小果粒の混入及び収穫期の果粒に黒斑発生が認められるが、ワイン品質に影響は無い。 2. 棚仕立て及び垣根仕立てともに栽培可能である。

品種名	来歴	編入年次	収穫期	一果(房)重g	果皮の色	糖度Brix	酸度%	その他の特徴	栽培上の留意点
リースリング・リオン 【地】	1. 育成元 サントリー(株)(昭和37年) 2. 交配組み合わせ 「甲州三尺」×「リースリング」	昭57	10月上旬～中旬	400～500	白色	19～20	0.8～1.0	1. 豊産性で耐寒性が強く、樹勢強く枝葉が旺盛に伸びる。 2. 酒質上。	1. 窒素過多に注意、べと病や、黒とう病にやや弱い。
メルロー 【地】	昭和11年ころ導入	昭57	10月上旬～中旬	150～200	濃紫色	18～20	0.7～0.8	1. 樹勢はあまり強くない。 2. 晩腐病にやや弱い着色前からの発病はない。 3. 酒質上。	1. 着果過多や気象条件により糖度上昇が期待できないことがある。 2. 晩生種のため県中部以南での栽培が安全である。
ヤマブラン 【準】	1. 来歴 国立大学法人山梨大学 2. 交配組み合わせ 「ピノ・ノワール」×(ヤマブドウ×「ピノ・ノワール」) 3. 平成12年品種登録	令7	10月上旬～中旬	100前後	白色	19～20	0.8～1.0	1. 露地条件下で、かつ、成熟に伴い酸度が低下した状態においても晩腐病の発生が少なく、また、裂果の発生も少ないため栽培が容易である。 2. 県北部と県中部において果実品質に大きな差はなく、県内全域で栽培が可能である。 3. ワインは、官能評価において、「モンドブリエ」と比較し香りはやや劣るが、味において同等の評点が得られ、酒質に優れる。	1. 垣根仕立て、棚仕立てでも栽培が可能である。
カベルネ・フラン 【地】	1935年にフランスより導入	昭63	10月中旬	200	紫黒色	16.5	1.0	1. 樹勢中庸、花振り性少ない。 2. 耐病性、耐寒性は弱く、「メルロー」と同等である。 3. 酒質中の上。	1. 仕立て法は平棚、垣根とも可で冬の防寒対策は特に必要としない。 2. 摘粒、袋掛けは必要ないが、糖度により価格決定がなされるので、生産目標を厳守する。

c. 日本なし

品種名	来歴	編入年次	収穫期	一果(房)重g	果皮の色	糖度Brix	酸度%	その他の特徴	栽培上の留意点
幸水 【準】	1. 育成元 農林水産省果樹試験場 2. 交配組み合わせ 「菊水」×「早生幸蔵」 3. 育成年次 昭和16年	昭57	9月中旬～下旬	250～300	黄緑色	10～12	0.5	1. 果形は扁円、肉質はち密で多汁、食味が優れている。 2. 日持ちは短く、7日くらいである。	1. 新水、早生赤とは交配不親和である。

d. 西洋なし

品種名	来歴	編入年次	収穫期	一果(房)重g	果皮の色	糖度Brix	酸度%	その他の特徴	栽培上の留意点
ジェイドスイート 【準】	1. 育成元 北海道農業試験場(現:農研機構北海道農業研究センター) 2. 交配組み合わせ 「マルゲリット・マリーラ」×「ブランディワイン」 3. 育成年次 平成4年 4. 平成27年品種登録	令5	8月下旬～9月上旬	300～350	黄緑色	収穫時: 11～12 追熟後: 12～13	収穫時: 0.1～0.2 追熟後: 0.1以下	1. 樹形は直立、樹勢および花芽着生は中程度である。 2. 果形はびん形。果皮色は黄緑色。1果重は300～350gと比較的大玉。 3. 果汁が非常に多く、肉質も密なため、食味は良好。 4. 追熟日数は、4℃で1週間予冷後、15℃の恒温条件で8～10日程度である。 5. 追熟後の可食期は、果皮色が黄色にやや緑色が残る時期であり、判断しやすい。	1. 開花時期は「ラ・フランス」と同程度で、交雑和合性は相互に高いことから受粉樹として利用できる。 2. 慣行防除により、他品種と比較して、特段問題となる病害虫は発生していない。 3. 果皮が弱く傷がつきやすいため、防風に留意するとともに、収穫時や出荷調整時は、果実の取り扱いをていねいに行う。
ゼネラル・レクラーク 【準】	1. 育成元 フランス・アンジュ国立果樹試験場 2. 交配組み合わせ 「ドワイエネ・デュコムス」の自然交雑実生(推定) 3. 導入 昭和52年青森県畑作園芸試験場により導入	平28	9月下旬	350～400	黄緑色	14～15	0.33	1. 果形は短洋ナシ型、果皮は厚く肉質はきめ細かく溶解性で多汁。 2. 大玉で豊産性。 3. 追熟日数は20～25日である。 4. 「ラ・フランス」との交配親和性は90%と高い。	1. 「ラ・フランス」よりも輪紋病に弱い。 2. 隔年結果とならぬよう適正着果に努める。 3. 樹ははじめ直立性で後に開張する。枝が柔らかく下垂しやすいため、骨格枝には十分切り返しを入れる。

品種名	来歴	編入年次	収穫期	一果(房)重g	果皮の色	糖度Brix	酸度%	その他の特徴	栽培上の留意点
ラ・フランス 【準】	フランス原産、明治36年日本へ導入	昭57	10月中旬～下旬	200前後	黄緑色の地に全面サビが覆う。	14～16	0.2	1. 果形は不正円形、肉質はち密、柔軟で石細胞が少ない。 2. 多汁で芳香がある。 3. 追熟日数は20～30日である。	1. 生産力を高め、安定生産を図るため早期摘果の励行と適正着果を厳守する。 2. 枝が硬く下垂しにくいいため、若木時代に角度の広い枝で主枝・亜主枝を構成する。
シルバーベル 【準】	1. 育成元 山形県園芸試験場 2. 交配組み合わせ 「ラ・フランス」の自然交雑実生	昭59	10月中旬～下旬	300～450	黄緑色	13～15	0.29	1. 果形は不正円錐形、肉質はち密、多汁で石細胞が少なく芳香がある。 2. 追熟日数は40日程度である。	1. 受粉樹の混植があっても年により開花期が異なる場合があるので、その場合は人工受粉を行う。 2. 樹は直立性で、枝は「ラ・フランス」より柔らかい。若木時代は花芽着生が遅れるので側枝には強い切り返しを加えない。

e もも

品種名	来歴	編入年次	収穫期	一果(房)重g	果皮の色	糖度Brix	酸度%	その他の特徴	栽培上の留意点
あかつき 【準】	1. 育成元 農研機構 2. 交配組合せ 白桃×白鳳 3. 育成年次 昭和27年	令6	8月中旬	270	白	11.4	pH4.7	1. 収穫期は8月中旬頃で中生品種としては食味は良好である。 2. 花粉を有するので、受粉樹を必要としない。	1. 収穫期は食味と触感により判断。 2. ほ場条件によってはせん孔細菌病等の発生が懸念される。
白鳳 【準】	1. 育成元 神奈川県園芸試験場 2. 交配組み合わせ 「白桃」×「橘早生」 3. 育成年次 大正14年	昭57	8月下旬	200～250	地色乳白色 陽光面に紅斑 がやや多く発生	10～12	pH4.5	1. 核は半粘核、核周囲は淡紅色で果肉にも紅斑を生じる。 2. 花粉が多く、また自家結実性が高い。	1. 無袋栽培が容易。 2. 黒星病、せん孔細菌病にやや弱い。
川中島白桃 【準】	1. 育成元 池田正元 2. 交配組合せ 偶発実生 3. 育成年次 昭和52年	令6	9月上旬	370	白	12.3	pH4.8	1. 大玉で食味は良好である。 2. 花粉を持たないため、受粉樹を必要とする。	1. 収穫期は食味と触感により判断。 2. ほ場条件によってはせん孔細菌病等の発生が懸念される。
大久保 【準】	1. 育成元 大久保五郎 2. 交配組み合わせ 「白桃」の偶発実生 3. 育成年次 大正9年	昭57	8月下旬～9月上旬	250	地色乳白色 紅色に着色	10～12	pH4.0	1. 離核、肉質やや粗く、無袋栽培では、果肉に紅色素が発現する。 2. 花芽、花粉量が多く、豊産性。	1. せん孔細菌病にやや弱い。 2. 加工栽培では有袋とする。

f ブルーベリー

品種名	来歴	編入年次	収穫期	一果(房)重g	果皮の色	糖度Brix	酸度%	その他の特徴	栽培上の留意点
アーリーブルー 【準】	1. 育成元 米国農務省 2. 交配組み合わせ 「スタンレー」×「ウェイマウス」 3. 育成年次 昭和27年	昭59	7月上旬～中旬	1.2	明青色	12.8	0.6	1. 中粒果で裂果少なく、甘み強い。 2. 樹勢強く、やや開帳性。	1. 土壌条件は酸性(pH(KCl)4.3～4.8)で有機質を多く含むこと。
スパータン 【準】	1. 育成元 米国農務省 2. 交配組み合わせ 「アーリーブルー」×「US11-93」 3. 育成年次 昭和52年	平28	7月上旬～下旬	1.7	明青色	11.5	0.8	1. 大粒果で品質上。 2. 樹勢強いが、結実後弱りやすい。	1. 土壌条件は酸性(pH(KCl)4.3～4.8)で有機質を多く含むこと。
ブルーレイ 【準】	1. 育成元 米国農務省 2. 交配組み合わせ (「ジャージー」×「パイオニー」)× (「スタンレー」×「ジューン」) 3. 育成年次 昭和30年	昭59	7月中旬 ～8月上旬	1.9	明青色	10.5	1.0	1. 大粒果で果肉硬く、裂果しにくい。 2. 樹勢は中で直立性。	1. 土壌条件は酸性(pH(KCl)4.3～4.8)で有機質を多く含むこと。

g おうとう

品種名	来歴	編入年次	収穫期	一果(房)重g	果皮の色	糖度Brix	酸度%	その他の特徴	栽培上の留意点
佐藤錦 【準】	1. 育成元 山形県東根市佐藤氏 2. 交配組み合わせ 「ナポレオン」×「黄玉」の交雑実生 3. 育成年次 大正元年	昭57	6月中旬～下旬	7～8	黄色地に鮮紅色に着色	17～18		1. 着色にすぐれ食味がよい。	1. 雨により裂果が多く発生する。 2. 必ず受粉樹を混植し、人工授粉も併せて結実確保に努める。
紅秀峰 【準】	1. 育成元 山形県園芸試験場 2. 交配組み合わせ 「佐藤錦」×「天香錦」 3. 育成年次 昭和54年	平18	6月下旬～7月上旬	8～9	赤～濃赤色	18～21		1. 着色しやすく、食味に優れる。 2. 「佐藤錦」、「ナポレオン」と交雑和合性である。	1. 結実確保のため、受粉樹を混植する。 2. 着果過多は樹勢を弱めるので適正着果に努める。 3. 早どりすると食味が劣るので、適期収穫に努める。

(2) 野菜

a いちご

品種名	来歴	編入年次	特性	栽培上の留意点	適応地域 (作 型)
さちのか (準)	1. 育成元 野菜・茶業試験場久留米支場 2. 平成8年発表 「いちご農林20号」(「さちのか」) と命名 3. 昭和62年に「とよのか」に「アイ ベリー」を交配し、系統選抜	平15	1. 休眠は「女峰」と同様に浅く、休眠打破に必要な5℃以下の低温 遭遇時間は150~200時間とされる。 2. 収量性は「女峰」よりもやや低い。 3. 平均1果重、大果(1果重15g以上)率は「女峰」よりも高く、規 格に優れる。 4. 「女峰」より硬度、糖度が高く、果実品質に優れる。 5. 果形は長円錐で、光沢に優れ、外観は良好である。果皮色は赤 ~濃赤で「女峰」よりやや濃い。	1. 花芽分化を行う半休眠状態を長期間維持するため、第一えき花 房分化期以後に保温を開始し、最低気温5℃以上で管理する。 2. 初期のえき芽の発生が比較的多く、放置すると収穫後期に小果 が増加するため、年内はえき芽を摘除し1~2芽管理とする。 3. 花芽分化期の肥効が強すぎる場合、花数が増加し、小果の増加 に繋がりがやすいため、着果過多の場合は摘果する(着果の目安 頂 花房10~12果、えき花房5~8果)。 4. 11月中下旬から日長延長方式により3~4時間の電照を開始し、 厳冬期は草丈25cmを目標に管理する。休眠から覚醒してくる2月末 以降は顕著に新葉が立ち上がってくるため、新葉の立ち上がりの状 況をみて、電照の打ち切り時期を判断する。	県央、県南部、沿岸部 (ハウス促成)
北の輝 (準)	1. 育成元 農水省野菜茶業試験場盛岡支場 2. 平成2年 「ベルルージュ」×「Pajaro」の実 生から選抜	平8	1. 草勢は強く、やや立性で、葉はやや濃く中程度の大きさであ る。 2. 果実は円錐形で、果皮色は鮮赤で光沢があり、果実硬度が極め て硬い。 3. 休眠覚醒のための低温要求量が多い。	1. 着果数が多いので、老化苗使用を避ける。 2. 高温または草勢が低下する条件下で、種浮き果が発生しやす い。	県下全域 (露地普通、ハウス早熟、ハウス半促成)

b なばな

品種名	来歴	編入年次	特性	栽培上の留意点	適応地域 (作 型)
はるの輝 (準)	1. 育成元 農水省東北農業試験場盛岡試験地 2. 昭和58年トワダナタネの突然変異 株の系統選抜	平6	1. 草丈(草高)は「オータムポエム」や「早陽1号」より長い。 2. 抽だい期、開花期は「三陸つぼみ菜」より遅い晩生種である。 3. 花茎、花蕾、葉などの植物体は表皮を覆う粉状のワックス質が なく、光沢があり、ゆでると鮮緑色で外観が優れる。 4. 収穫茎(茎葉・蕾)の食味は、苦味がなく、やや甘味を有し、 柔らかで青臭みがない。	1. 播種適期は8月中旬~9月下旬で、遅播きほど収量が低下する。 2. 抽だいには低温が必要なため、ハウス等で早出し栽培を行う場 合には幼苗期に5℃で2カ月程度の低温処理が必要である。 3. 露地栽培の収穫時期は、ハウス栽培に比べ約1カ月遅れる。 4. 収穫期に低温に遭うと、茎にアントシアンが発現するので注意 する。 5. 根こぶ病には抵抗性がないのでアブラナ科作物との連作や発生 ほ場での栽培を避ける。	県南部および沿岸地域 (ハウス促成、露地普通)

c 馬鈴薯

品種名	来歴		編入年次	試験場所 (年次)	収量		澱粉価 %	開花期 月日	枯凋期 月日	ウイルス 病感受性	疫病 抵抗性	花色	薯形	肉質	目の深淺	適応地域	特性と栽培上の注意	
	母×父	育成地			上いも重 (kg/10a)	1個重 g												
男爵薯 (準)	アイリッシュ・コブラー をイギリスから導入	アメリカ	昭18	本場 北上市 (H11~22)	3,135	88.5	11.3	6.18	8.9	感受性	弱	淡赤紫	偏形	白	やや粉~ 粉	深	全県	早生。疫病、ウイル ス病ともに弱い。 食味良好で用途が広 くチップス等の加工 用途にも適する。
マークイン (準)	不明	イギリス	平3	本場 北上市 (H11~22)	3,363	83.5	10.5	6.14	8.15	感受性	弱	紫に白斑	腎臓形	白	やや中~ 粉	やや深	全県	中生の早。疫病、ウ イルス病ともに弱 い。煮崩れしにくく 舌触りが良い。

(3) 花き

a りんどう

品種名	来歴	編入年次	特性	栽培上の留意点	適応地域 (作 型)
いわてVEB6号 (いわて夢あおい) (奨)	1. 育成：平成19年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：母系・父系ともにエゾリンドウの選抜系統を交雑した一代雑種 3. 平成22年品種登録	平20	1. 開花期は、北上市付近の露地で7月上旬咲きの極早生種。 2. 草丈は80cm前後で立茎数は10本前後となる。 3. 茎の太さは並で側枝の発生はなく、上部に中程度の着色がみられる。 4. 花段数は4段前後で花色は若干薄めの青紫色である。 5. 葉は大きめである。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。 2. 草丈が低めであること、花段数は少なめであることに留意して導入すること。 3. 県北地域では、採花盛期が新盆需要期以降となる。	県下全域（露地普通、促成、半促成）
いわてVEB-7号 商標：いわて夢ぎんが (奨)	1. 育成：平成26年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：母系・父系ともにエゾリンドウの選抜系統を交雑した一代雑種 3. 平成30年品種登録	平27	1. 開花期は、北上市付近の露地で7月中旬咲きの極早生種。 2. 草丈は120cm前後で、立茎数は17本前後。側枝の発生はない。 3. 茎は緑色。 4. 花色は鮮青紫で、頂花房も開花しやすい。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。	県下全域（露地普通）
いわてEB-1号 商標：恋りんどう (奨)	1. 育成：平成26年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：母系・父系ともにエゾリンドウの選抜系統を交雑した一代雑種 3. 平成30年品種登録	平27	1. 開花期は、北上市付近の露地で7月下旬～8月上旬咲きの早生種。 2. 草丈は140cm前後で、立茎数は20本前後。側枝の発生はない。 3. 茎は緑色。 4. 花色は鮮青紫で、頂花房も開花しやすい。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。	県下全域（露地普通）
いわてEB-3号 商標：恋りんどう (奨)	1. 育成：令和元年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：母系・父系ともにエゾリンドウの選抜系統を交雑した一代雑種。 3. 令和7年品種登録	令2	1. 開花期は、北上市付近の露地で7月下旬～8月上旬咲きの早生種。 2. 草丈は125cm前後で、伸長しやすい。 3. 茎は緑色。 4. 花色は鮮青紫。頂花房は開花しやすい。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。	県下全域（露地普通）
いわてEB-4号 (奨)	1. 育成：令和5年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：母系・父系ともにエゾリンドウの選抜系統を交雑した一代雑種 3. 令和6年品種登録出願	令6	1. 開花期は北上市付近の露地で7月下旬～8月上旬咲きの早生種 2. 草丈は120cm前後で、立茎数は13本前後となる。 3. 茎は緑色。 4. 花段数は5段前後で花色は濃い青紫色である。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。	県内全域（露地普通）
いわてEB-2号 商標：いわて夏のあい (奨)	1. 育成：平成27年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：母系・父系ともにエゾリンドウの選抜系統を交雑した一代雑種 3. 平成31年品種登録	平28	1. 開花期は北上市付近の露地で8月上旬咲きの早生種。 2. 草丈は140cm前後で、伸長しやすい。 3. 茎は緑色。立茎数は多い。 4. 花色は鮮青紫。頂花房は開花しやすい。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。 2. 立茎数が多いため、株仕立ては必ず実行する。	県下全域（露地普通）
いわてEB-5号 (奨)	1. 育成：令和6年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：母系・父系ともにエゾリンドウの選抜系統を交雑した一代雑種 3. 令和7年品種登録出願	令7	1. 開花期は北上市付近の露地で8月上中旬咲きの早生種。 2. 草丈は130cm前後で、伸長しやすい。 3. 茎は緑色で、側枝の発生は少ない。 4. 花色は青紫で高温下でも着色しやすい。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。	県内全域（露地普通）
いわてMB-2号 商標：いわて晩夏のあい (奨)	1. 育成：平成27年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：母系・父系ともにエゾリンドウの選抜系統を交雑した一代雑種 3. 平成31年品種登録	平28	1. 開花期は北上市付近の露地で8月中旬咲きの中生種。 2. 草丈は140cm前後で、伸長しやすい。 3. 茎は緑色。立茎数は多い。 4. 花色は青紫。頂花房は開花しやすい。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。 2. 立茎数が多いため、株仕立ては必ず実行する。	県下全域（露地普通）

品種名	来歴	編入年次	特性	栽培上の留意点	適応地域 (作 型)
いわてLB-3号 商標：いわて夢のぞみ (奨)	1. 育成：平成25年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：母系・父系ともにエゾリンドウの選抜系統を交雑した一代雑種 3. 平成29年品種登録	平26	1. 開花期は県中南部で9月上旬咲きの晩生種。 2. 草丈は160cm前後で、立茎数は14本前後。側枝の発生はほとんどない。 3. 茎は緑色。 4. 花色はやや濃い青で、頂花房も開花しやすい。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。 2. 草丈が高いため、対応する支柱・ネットを設置する。	県下全域（露地普通）
いわてLB-4号 商標：いわて夢のぞみ (奨)	1. 育成：平成25年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：母系・父系ともにエゾリンドウの選抜系統を交雑した一代雑種 3. 平成29年品種登録	平26	1. 開花期は県中南部で9月上旬咲きの晩生種。 2. 草丈は140cm前後で、立茎数は17本前後。側枝の発生はない。 3. 茎は緑色。 4. 花色はやや濃い青で、頂花房も開花しやすい。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。 2. 立茎数が多いため、株仕立ては必ず実行する。	県下全域（露地普通）
いわてLB-5号 商標：いわて中秋のあい (奨)	1. 育成：平成28年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：母系・父系ともにエゾリンドウの選抜系統を交雑した一代雑種	平29	1. 開花期は北上市付近の露地で9月中旬咲きの晩生種。 2. 草丈は150cm前後で、伸長しやすい。 3. 茎は緑色。立茎数は8本程度、側枝は発生しない。 4. 上位葉の着生角度が鋭角で草姿が良い。 5. 花色は鮮青紫。花は大きく、頂花房は非常に開花しやすい。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。 2. 草丈が高いため、対応する支柱・ネットを設置する。	県下全域（露地普通）
いわてLB-6号 商標：いわて中秋のあい (奨)	1. 育成：平成28年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：母系・父系ともにエゾリンドウの選抜系統を交雑した一代雑種	平29	1. 開花期は北上市付近の露地で9月下旬咲きの晩生種。 2. 草丈は160cm前後で、伸長しやすい。 3. 茎は緑色。立茎数は8本程度、側枝は発生しない。 4. 上位葉の着生角度が鋭角で草姿が良い。 5. 花色は鮮青紫。花は大きく、頂花房は非常に開花しやすい。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。 2. 草丈が高いため、対応する支柱・ネットを設置する。	県下全域（露地普通）
いわて夢みのり (奨)	1. 育成：平成22年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：母系・父系ともにエゾリンドウの選抜系統を交雑した一代雑種 3. 平成26年品種登録	平23	1. 開花期は、北上市付近の露地で9月下旬咲きの晩生種。 2. 草丈は160cm前後で、立茎数は10本程度。 3. 茎の太さは中～太、中～上部にやや着色する。 4. 花色は鮮青紫で花段数は7段前後。頂花房も開花しやすい。 5. 葉は大きめ。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。 2. 草丈が高いため、対応する支柱・ネットを設置する。	県下全域（露地普通）
いわて夢みつき (奨)	1. 育成：平成23年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：母系・父系ともにエゾリンドウの選抜系統を交雑した一代雑種 3. 平成27年品種登録	平24	1. 開花期は、北上市付近の露地で9月下旬～10月上旬咲きの極晩生種。 2. 草丈は180cm前後で、立茎数は10本程度。 3. 茎の着色が見られる。 4. 花色はやや濃い青で、頂花房も開花しやすい。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。 2. 草丈が高いため、対応する支柱・ネットを設置する。	県下全域（露地普通）
アルタ (奨)	1. 育成：平成3年岩手県園芸試験場 2. 育成方法：鳥取産選抜系に九州産選抜系を交雑した一代雑種	平5	1. 開花期は、北上市付近の露地で10月下～11月上旬咲きの極晩生種。 2. 草丈は90～100cmで、茎の太さは中程度で強い。茎の色は黒紫色。側枝が若干発生する。 3. 花冠内面上部の色は青紫を呈し、外面の縞模様は紫褐色である。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。 2. 開花期が遅いため、霜などにより品質が低下することがあるので注意する。	高冷地を除く県下全域 (露地普通)
いわて乙女 (奨)	1. 育成：昭和56年岩手県園芸試験場 2. 育成方法：雫石町千沼が原産の選抜系に福島県吾妻産の選抜系を交雑した一代雑種	昭58	1. 開花期は北上市付近の露地で8月上～中旬咲きの鉢物用品種。 2. 草型は直立性で、草丈は実生2年株で17cm前後のわい性である。茎径は4mm前後と太くなる。 節数は、14節程度で立茎数は4本前後、葉は濃緑色で立葉、花は頂部に集合、花色は鮮青紫。	1. 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。 2. 鉢用土は切花用りんどうと同様にpH5.0～6.0程度の酸性土壌で病害虫のおそれのない土を使用する。	県下全域 (1. 4月植え露地8月出荷) (2. 冷蔵5～6月植え9～10月出荷)

品種名	来歴	編入年次	特性	栽培上の留意点	適応地域 (作 型)
ももずきんちゃん (奨)	1. 育成：平成20年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：ササリンドウ系統とエンゾリンドウ系統の交雑系統とササリンドウ系統との交雑種 3. 平成23年品種登録	平21	1. 開花期は北上市付近の施設内親株無加温管理で8月下旬、露地管理で9月下旬咲きの鉢物用品種。 2. 草丈は15cm程度で、摘心した主茎から側枝が7～8本程度発生する。莖径は2mm程度と細めであり、草姿は立性である。 3. 花色は花冠内面上部が明赤味紫(桃色)、花冠外面が赤味紫であり、花冠外面の着色が極少なく、明瞭な桃色を呈する。気温が17℃程度あれば、室内等の弱光下でも花卉展開する。 4. 増殖は栄養繁殖(組織培養、挿し木)による。	1. 交雑品種のため、採り返しの種子は利用できない。 2. 茎が弱めで、開花時に花蕾の重みで開張ぎみの草姿となるため、リングを付ける等の必要がある。	県下全域 (8月下旬～9月出荷)
Bzc-1 商標：いわてあおりん (奨)	1. 育成：平成30年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：ササリンドウ系統やエンゾリンドウ系統の交雑を繰り返し、選抜を行った交雑種 3. 令和4年品種登録	平31	1. 開花期は北上市付近の施設内親株無加温管理、5月上旬挿し木、6月下旬摘心で9月上旬咲きの鉢物用品種。 2. 草丈は20cm程度で、摘心した主茎から側枝が7～8本程度発生する。莖径は1.5mm程度と細めであり、草姿は立性である。 3. 花色は花冠内面上部が鮮青紫(青色)、花冠外面が浅青紫である。 4. 増殖は栄養繁殖(組織培養、挿し木)による。	1. 交雑品種のため、採り返しの種子は利用できない。 2. 茎が弱めで、開花時に花蕾の重みで開張ぎみの草姿となるため、リングをつける等の必要がある。	県下全域 (8月上旬～10月出荷)
Bzc-1 mut1 商標：いわて恋ももりん (奨)	1. 育成：令和3年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：「Bzc-1」へ重イオンビームを照射して得られた突然変異系統 3. 令和7年品種登録	令4	1. 開花期は北上市付近の施設内で親株を0℃加温管理、4月上旬挿し木、6月中旬摘心で9月中旬咲きの鉢物用品種。 2. 9月中旬以降の花色は花冠内面上部が鮮赤紫、花冠外面が濃紫ピンクである。 3. 草丈は25cm程度で、摘心した主茎から側枝が6本程度発生する。また、開花期や草姿は、同条件で栽培した「Bzc-1」とほぼ同等である。 4. 増殖は栄養繁殖(組織培養、挿し木)による。	1. 交雑品種の突然変異系統のため、採り返しの種子は利用できない。 2. 開花時に花蕾の重みで開張ぎみの草姿となるため、リングをつける等の必要がある。	県下全域 (9月～10月出荷)
いわてDfG PB-1号 商標：いわて八重の輝きブルー (奨)	1. 育成：令和元年岩手県農業研究センター 2. 育成方法：八重咲きササリンドウ系統等の交雑を繰り返し、選抜を行った交雑種 3. 令和6年品種登録	令2	1. 開花期は北上市付近で親株を加温施設で管理、3月中旬挿し木、6月下旬最終摘心で9月中旬から開花する鉢物用品種。 2. 草丈は20cm程度で、摘心した主茎から側枝が7本程度発生する。莖径は1.2mm程度と細めであり、草姿は立性である。 3. 花型は雄ずいが花弁化して八重咲き性を示し、花色は花冠内面上部が明青紫、花冠外面が紫白である。 4. 増殖は栄養繁殖(組織培養、挿し木)による。	1. 雄ずいが花弁化して、花粉がないことから自殖種子は採れない。 2. 茎が弱めで、開花時に花蕾の重みで開張ぎみの草姿となるため、リングをつける等の必要がある。	県下全域 (9月～10月出荷)